

2021年度（総合型選抜）AO選抜入学試験
総合心理学部 「総合心理学部課題論文方式」

【選考講評】

1. 実施状況

(1) 志願者数, 合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
総合心理学科	90	31	17

(2) 本入学試験の目的

この試験では、本学部アドミッション・ポリシーのうち、特に人間の心と行動、現代における人間の在り方に関する基礎的な問題関心を有していることを学生に求めています。心理学を学ぶ意欲と問題意識が極めて高く、設定された課題に対する理解力と表現力に優れ、かつ独創的な発想力を持つみなさんの出願を期待しています。

2. 試験内容

(1) 第一次選考

第一次選考のエントリーシートでは、志望理由、入学後に学びたい分野やテーマについて、卒業後の進路（就職や大学院進学）についての希望、の3点について記述を求めました。小論文では、心理学に関連するテーマを自身で設定し、自由に論述することとしました。テーマは学術的に高度なものを含む必要はなく、現時点での知識や関心に即し、あるいは入学後に勉強したいと思う内容を中心に論述するものとしました。

(2) 第二次選考

第一次選考合格者に対して、90分の課題論文試験と約20分の個人面接試験を実施しました。課題論文では、4つのポイントについて問いました(順不同)。1) 高等学校の学習を踏まえ、心理学に関する文章理解を問うもの、2) 同理解に基づいて、考える力およびそれを表現する力を総合的に試すもの、3) 研究データを示すグラフを読みとりその内容を説明するもの、4) 研究内容の重要事項をクリティカル(批判的)に論じるもの、です。個人面接では、二人の面接担当教員が選考書類に基づき、特色ある活動と学びの実績、志望動機や入学後の学習目標や取り組みたいこと等について質問しました。

3. 出題の意図

(1) 第一次選考

エントリーシートでは、本学への志望動機や入学後に学びたい分野・テーマが明確になっているか、学習意欲・関心は高いか、卒業後の進路について明確なビジョンを有しているか、将来について真剣に向き合っているか、などを審査しました。小論文では、論文としての構成、内容の論理性、説得性、独創性、また語句や漢字を正しく書いているかを審査しました。

(2) 第二次選考

課題論文では、文章や図、データなどを読み込み、科学的に考え、書く力を総合的に試すものとなっていました。設問1と3では、文脈にそって図から必要な読み取りができていのかどうかを審査しました。設問2では、課題論文の内容をもとに自分の考えを論理的に展開できているかを評価しました。設問4では文章から必要な情報を読み取ることができているかどうかを審査しました。設問5では、課題論文の内容をもとにクリティカル(批判

的)に考え、自分の考えを論理的に展開できているかを評価しました。

4. 評価のポイント

(1) 第一次選考

エントリーシートに記載されている志望理由や学びたい分野が、総合心理学部の教育目標や教育課程と合致するかどうかを評価しました。また、これまでの学業の達成度についても評価しました。小論文については、興味深いテーマを追求しているか、文章の構成がよく考えられているか、語句の使用は適切かなどを評価しました。

(2) 第二次選考

第二次選考 課題論文では、文章や図、データなどを読み込み、科学的に考え、書く力を総合的に試すものとなっていました。設問1と3では、図をどこまで正確に理解できているかを評価しました。設問2では、多角的な視点からものごとを見れていることを評価しました。設問3では、情緒的サポートと実質的サポートのそれぞれに触れていることを評価しました。設問4では、情緒的サポートと実質的サポートのそれぞれに触れたうえでどこまで議論を深められているかを評価しました。

5. 解答状況

(1) 第一次選考

エントリーシートについては、多くの受験生が本学のアドミッション・ポリシーや本学総合心理学部のカリキュラムの特徴をよく理解して記載していました。小論文については、個人的な経験だけを中心にまとめたものよりも、心理学について自分なりに考えたものが多く見られました。その中で、特に多角的に論じるなど、構成にひと工夫を加えているもの、独自の視点から論じている論文の評価が高くなりました。

(2) 第二次選考

設問1と3については、おおよそ正しく解答されていましたが、図で示された結果の意味を十分記述されない傾向がありました。設問2については、図で示された結果とは直接関連しないことを記述する解答が多く見られました。結果のポイントを正確に読み取った解答は少なかったです。設問4について、ほとんどの回答において適切に解答できていました。設問5について、それぞれの体験を踏まえて、十分な議論を展開できていました。ただし、時間の配分を誤ったのか、解答途中と思われるものが複数ありました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

総合型選抜入試では、心理学を学ぶ意欲や問題意識が高いことはもちろん、設定された課題に対する理解力や分析力、表現力、独創性なども評価の対象としています。すなわち、課題を読みこなし、自分の見解を論理的に表現するための国語・英語、データを分析的に読み解く力としての数学など、高校での基礎的な学習が総合型選抜入試対策としても役に立つということです。また、高校までの教育において心理学に関する知識を体系づけて学習する機会はほとんどないと思いますので、心理学とその関連領域について書籍を読んだり、新聞やニュースを通じて社会で起こる出来事について心理学の観点から考え、深く関心を持ったりすることも受験対策のひとつとなります。

以上